



「ふるさとを愛し、
生きていく力を育む萩っ子」の育成を目指します

教師の喜び

校長 河村 康郎

2023年10月26日、プロ野球のドラフト会議（プロスポーツにおいて選手を各チームに振り分けるために行う会議）が行われました。

私にとって、今年のドラフト会議は目が離せないものでした。教え子が指名される可能性があったからです。4年前、彼が高校3年生の時、プロ志望届を出していましたが、指名されることはありませんでした。その後、彼は4年間、大学野球に打ち込み、努力と成長を続けました。そして今年、再びプロ志望届を出し、ドラフト会議での指名を待ちました。私は4年前と同様「12球団、どこでもいいから彼を指名してほしい」そんな思いでテレビの画面を見ていました。しかし、番組放送中、指名されることはありませんでした。

それから数十分後、ネット記事で彼が育成枠（2軍の試合には出場することができ、その後の活躍次第で1軍に出場することができる契約になる可能性がある）で指名されたことを知りました。育成枠の選手はその後3年以内に支配下登録選手にならなければ、自由契約になる可能性があります。ここから勝負です。きっと、彼はさらに成長を続け、1軍昇格を勝ち取ると信じています。

先日、教員生活5年目の先生たちが行う研修が高萩中で行われました。その中の一人が、職員室にいたある先生に「先生、覚えていますか」と声をかけていました。その言葉に対して「おう！覚えてるよ！教員になったんだ！」その時のその先生の嬉しそうな声と顔。

自分が関わった生徒が、中学校卒業後、人としての成長を遂げ、幸せな人生を送っている姿を見ることができると、それは教師の喜びです。決して教え子が有名になったり、表舞台で活躍したりする姿を見ることがだけが嬉しいわけではありません。中学校の頃、ちょっとしたつまずきからなかなか学校に足が向かなかった教え子が焼き肉店を出したらしいと風のうわさで聞きました。そんな話が聞こえてくるだけで、とても嬉しい気持ちになり、勇気や元気をもらいます。教師冥利に尽きるとはこのことだなと実感します。

高萩中学校を巣立っていった生徒が、自らを大事にし、それぞれの人生を一步步自分で進んでいって欲しいと心から願っています。この思いは教師のみならず、保護者の方、地域の方も同じだと思います。これからも萩中生を応援しています。

☆保護者の皆様へ

10月末からインフルエンザが猛威を振るい、あっという間に、学級閉鎖を経て、学年閉鎖となってしまいました。その影響で、全校で合唱祭を行うことが叶いませんでした。今、できるベストな方法で合唱祭を開催いたします。ご理解・ご協力をお願いいたします。

